

**定量的影響度調査  
(QIS5)**

**質問票**

**金融庁  
日本銀行**

**2005年11月**

## 目次

はじめに.....	3
1. データの基準日等.....	3
2. 信用リスクの推計 総論.....	3
3. 標準的手法.....	5
4. 内部格付手法.....	5
(1) デフォルト確率(PD)の推計.....	5
イ、事業法人等向けエクスポージャー、中堅中小企業向けエクスポージャー.....	6
ロ、リテール向けエクスポージャー.....	7
(2) デフォルト時損失率(LGD)の推計(AIRB 及び IRB リテール).....	9
5. オペレーショナル・リスク(AMA).....	11

はじめに

本質問票は、定量的影響度調査(QIS5)にて提出頂くデータの分析を行う上で必要となる情報の収集を目的として、調査シート(Excelシート)に入力されたデータの推計方法等をお尋ねするものです。

本調査にご協力頂く金融機関におかれましては、このような目的に鑑み、告示案等を参照しつつ、現在の各々の準備状況を踏まえ、可能な限り明確にご記入下さい。(本質問票の回答において、05年3月期国内影響度調査(フィールドテスト)の質問票に回答した内容と同様である場合には、その旨を回答して頂いても構いません。)

本調査は、現段階において内部格付手法採用行に求められる最低要件を遵守することを求めるものではありませんが、データの不足を補うため、または推計の過程を簡素化するために、一定の仮定を設け、現時点における最善の推計を行った場合には、その方法等について、本質問票の回答の中でご教示下さい。

## 1. データの基準日等

(問1) 次の項目について御記入下さい。

### ① 本調査に用いたデータの基準日

(法人等で異なる場合は、その旨ご記入下さい。)

(回答)

### ② 本調査の対象とした法人名

(回答)

## 2. 信用リスクの推計 総論

(問2) 現時点における内部格付手法採用予定時期を記入下さい。

(回答)

(問3) 資産区分を行うのが困難なエクスポージャーはありましたか？ もしある場合、本調査においてはどのように対応したのかについて回答して下さい。

(回答)

(問4) 内部のシステムが本調査形式に沿った形で算出するのに適していない、内部格付制度が未整備、あるいはデータやモデルに制約がある、等の理由から、エクスポージャーの額が入手可能な情報に基づき概算(あるいは代替的な方法、現状における最善の推計方法)で算出されている事例について説明して下さい。

(回答)

(問5) 内部格付手法のデータに関し、該当する資産区分に応じた格付を適切に付与することができなかった場合、その主たる原因、あるいは代替的に行った格付の割当方法につき説明して下さい。

(回答)

(問6) 信用リスク削減手法をどのように勘案しましたか？ 以下の中から選択して下さい。また、資産区分により勘案方法が異なる場合には、その差異も併せて回答して下さい。

- ① 利用可能な全ての担保と保証(クレジット・デリバティブを含む。以下同じ。)を勘案
- ② ポートフォリオ内の幾つかのサンプルについて担保と保証の価値を評価し、その結果をポートフォリオ全体に適用  
(併せて、サンプルの抽出基準等について記述して下さい。)
- ③ データの利用可能な担保と保証のみを勘案  
(併せて、担保・保証効果を勘案可能な貸出額のうち、担保・保証のデータが利用可能だったものの割合(%)、およびデータが利用不可であったものの内

容について記述して下さい。)

④ その他

(その他の方法についてご説明下さい。)

(回答)

3. 標準的手法

(問7) 標準的手法のリスク・ウェイトを決定するため、どの格付機関の格付を用いましたか？ その機関名について回答して下さい。

(回答)

(問8) 格付機関の格付を、標準的手法のリスク・ウェイトの区分にどの様にマッピングしましたか？ マッピング方法につきご説明ください。

(回答)

(問9) 全てのエクスポージャーのうち、バーゼルⅡ実施後も無格付であることが見込まれるエクスポージャーの割合およびその内容につき回答して下さい。

(回答)

4. 内部格付手法

(1) デフォルト確率(PD)の推計

内部格付制度およびPD推計について、下記イ、ロの質問に回答して下さい。

イ、事業法人等向けエクスポージャー、中堅中小企業向けエクスポージャー

(問10) PD推計のためにどのようなデータを使用しましたか？ 以下の中から選択して下さい。

① 自行のデフォルトデータ

(併せて、何年分のデータを使用し、どの期間のデータを用いたのか回答して下さい。)

② 外部データ

(併せて、何年分のデータを使用し、どの期間のデータを用いたのか回答して下さい。また、その外部データの情報源、ベンダー名、およびPD推計を行う上で当該外部データを用いることの適切性について回答して下さい。)

③ 自行のデフォルトデータを外部情報により補足

(併せて、何年分のデータを使用し、どの期間のデータを用いたのか回答して下さい。また、その外部データの情報源、ベンダー名、およびPD推計を行う上で当該外部データを用いることの適切性について回答して下さい。)

(回答)

(問11) 景気変動に伴う信用度の変化は、内部格付制度およびPD推計にどのように反映されていますか？ 下記の中から一つ選択して下さい。

① 格付に付与されるPDではなく、債務者に付与される格付に対して、主に反映される。

② 債務者に付与される格付ではなく、格付に付与されるPDに対して、主に反映される。

③ PDおよび格付には既に保守性ないしストレス状況が反映されているため、PDにも格付にも殆ど影響していない。

④ PDおよび格付が長期の観測期間を対象としているため、PDにも格付にも殆ど影響していない。

⑤ PDと格付の双方に反映される。

(回答)

(問12) 予想されるデフォルトの件数(「内部格付の遷移」および「各格付に付与されるPDの変動」の双方を勘案した件数)は、景気変動に応じてどのような状態になっていますか? 下記の中から一つ選択して下さい。

- ① 比較的安定している。
- ② 格付機関による格付遷移、非常に長期の観測期間をもって付与されたデフォルト確率を用いた場合と同程度に変動する。
- ③ 上記以上に変動する。その変動要因としては、PD 推計がより短期間の平均で行われていること、あるいは、格付機関による格付遷移に比べ、自行の内部格付における格付遷移がより多く生ずることなどに起因すると思われる。
- ④ 各時点での景気状態を完全に反映して変動する。
- ⑤ その他

(変動要因が上記の何れかの状況に近いのかを含めご説明下さい。)

(回答)

(問13) 事業法人等向けエクスポージャーおよび中堅中小企業向けエクスポージャーの総リスク・アセットのうち、現在使っている内部格付制度により格付が付与されている割合(%)につき記入して下さい。(概算可)

(回答)

#### ロ、リテール向けエクスポージャー

(問14) 景気変動に伴う信用度の変化は内部格付制度あるいはPD推計にどのように反映されていますか。下記の中から一つ選択して下さい。

- ① 格付に付与されるPDではなく、債務者に付与される格付に主として反映される。
- ② 債務者に付与される格付ではなく、格付に付与されるPDに主として反映される。

- ③ PDおよび格付には既に保守性ないしストレス状況が反映されているため、PDにも格付にも殆ど影響していない。
- ④ PDおよび格付は長期の観測期間を対象としているため、PDにも格付にも殆ど影響していない。
- ⑤ PDと格付の双方に反映される。

(回答)

(問15) 予想されるデフォルトの件数(「内部格付の遷移」および「各格付に付与されるPDの変動」の双方を勘案した件数)は、景気の変動に応じてどのような状態になっていますか? 以下の4段階で評価して下さい。(可能であれば、リテール向けエクスポージャーの資産区分毎に回答して下さい。)

- 1=比較的安定している
- 2=緩やかに変動する
- 3=大きく変動する
- 4=各時点での景気状態を完全に反映して変動する

(回答)

(問16) リテール向けエクスポージャーのプールへの割当からPD推計のプロセスにおいて、過去何年分のデータを用いて行ったのかご回答下さい。併せて、どの期間のデータが対象をなっているのかにつき回答して下さい。

(回答)

(問17) リテール向けエクスポージャーの総リスク・アセットのうち、現在使っている内部格付制度により格付が付与されている割合(%)につき記入して下さい。(概算可)

(回答)

(2) デフォルト時損失率(LGD)の推計(AIRB及びIRBリテール)

(問18) どの資産区分(あるいは更に細分化された区分)において、内部データを利用し、自行で開発したモデルにより景気後退期を勘案したLGDの推計を行っていますか？ 同様に、どの資産区分(あるいは更に細分化された区分)において、外部データや外部モデルに基づき、景気後退期を勘案したLGDの推計を行っていますか？ また、当該LGDの推計に当たり、外部データによる補完等を行っている場合、どのようにそれらを利用し、どのように外部データと自行データとの整合性を確認したのかについて回答して下さい。

(回答)

(問19) LGD推計値の調査シートの入力に関し、以下の点に回答して下さい。

- (a) 調査シートへの入力プロセスにおいて、まず案件毎にLGD推計を行った上、調査シートに対応するLGD区分(調査シートのPD/LGDマトリクスの列に対応)毎に集計して入力をしましたか？ あるいは、あらかじめ調査シートに合わせたLGD区分のレベルで直接推計を行いましたか？
- (b) 上記手法は資産区分によって異なりますか？

(回答)

(問20) LGD推計において、回収における直接コストおよび間接コストはどのように勘案していますか？ その勘案したコストの種類および内容につきご回答下さい。(可能であれば資産区分毎に回答して下さい。)

(回答)

(問21) LGD推計に用いる回収キャッシュフローを割引く(ディスカウント)方法に関し、以下の内容を資産区分毎に回答して下さい。

- (a) LGD推計において、どのようなディスカウント方法が用いられていますか？また、それは資産区分によって手法が異なりますか？
- (b) デフォルト債権と非デフォルト債権において異なるディスカウント方法が用いられますか？
- (c) 回収期間中にデフォルト債権を保有し続けることに伴う機会費用は勘案されていますか？

(回答)

(問22) 景気後退期を勘案する際に存在する実務的な制約の有無につき回答して下さい。もし制約がある場合、それはどの資産区分(もしくは更に細分化されたレベル)が該当するのか、また景気後退期を勘案するために行った暫定的な推計方法につきご説明下さい。

(回答)

(問23) どの資産区分(ないし更に細分化されたレベル)において、「景気後退期を勘案したLGD」と「長期デフォルト加重平均デフォルト時損失率」とが一致すると考えられますか？ もし一致すると考える場合、その理由をご説明下さい。

(回答)

(問24) PD推計とLGDの推計について同一のデータおよび同一のデフォルトの定義を用いていますか？ 下記の中から一つ選択して下さい。

- (a) デフォルトの定義およびデータともに同一

- (b) データは同一だがデフォルトの定義は異なる
- (c) デフォルトの定義は同一だがデータは異なる
- (d) データ、デフォルトの定義とも異なる

(b)または(d)に該当する場合には、PDの推計におけるデフォルト定義と、LGDの推計におけるデフォルト定義とがどのように異なっているかについてご説明下さい。一方の定義に含まれるものが、他方の定義においては含まれないという傾向があれば回答して下さい。

(c)または(d)に該当する場合には、データがどのように異なっているかについてご説明下さい。もし、データ間の整合性および異なるデフォルトの定義との整合性を確保するためにマッピングを行った場合は、その手順をご説明下さい。

(回答)

## 5. オペレーショナル・リスク(AMA)

(問25) オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たり、どのような理論的手法、分析的手法を用いましたか？

(回答)

(問26) オペレーショナル・リスク相当額について、どのような業務区分・損失事象の単位に基づいて計算を行いましたか？ また、当該単位に応じて算出された各オペレーショナル・リスク相当額間の相関関係に基づくオペレーショナル・リスク相当額の調整(告示案第315条第3項第2号)を行いましたか？

(回答)

(問27) オペレーショナル・リスク相当額の算出において、以下の要素をどのように使用し、どのように反映しましたか？

- (a) 内部損失データ

- (b) 外部損失データ
- (c) シナリオ分析
- (d) 業務環境および内部統制要因

(回答)

(問28) オペレーショナル・リスク相当額に、告示案第311条にある「オペレーショナル・リスク損失の額の期待値」は含まれていますか？

(回答)

以 上